

季節の商品制作

1. 目的

職場体験実習Ⅲで自身の技術不足を感じた。園芸色彩学やフラワーデザイン実習の授業を通して色の知識不足、組み合わせや使い方に苦手意識を感じているため、季節の商品制作を通して技術の向上と色の理解を深めることを目的とした。

2. 制作

季節とテーマ、それに合った色を決めてから花束、アレンジメント、寄せ植え、ハンギングバスケットを制作した。完成した作品は指導教員から指摘を受けた箇所が改善されるまで手直しを繰り返した（表－1）。

制作時期が12月だったため、入手できない季節の花は、季節のイメージカラーの入手できる花で代用した。

3. まとめ

花束制作では、花の形状を活かす組み方やメインの花を目立たせるための配置、花のリズムの揃え方、花束を組みやすくするための工夫を学んだ。

アレンジメント制作では、空間、凹凸、奥行きの大切さとその作り方、一体感の出し方を学んだ。花を挿す面積が少ないデザインの時は大輪の花ばかりだと大味な印象になってしまうため、小花やグリーンを入れることで繊細な印象になり、形状の異なる花を入れることでメリハリがつくことを学んだ。

寄せ植えでは、植物の育ち方を考えた配置、外側に広げて植えることで大きく見せることができること、植物に合わせた器を選ぶことが大切だと学んだ。

ハンギングバスケットでは、背の高い植物を使うときは全体に点在させることでバランスが取れること、球根を植える時は目立たない場所にすることを学んだ。

色では、補色や明度に差をつけてコントラストを作ることによって作品にメリハリが出ること、濃い色と薄い色を隣に配色することで視覚的重量を軽くすることができること、アンダートーンを揃えることでまとまった印象になることを学んだ。

様々な作品を制作することで自身の技術の向上と色の理解を深めることができた。

表－1

完成品	学んだこと
2月アレンジメント (バレンタイン) 	・形状の異なる小花とグリーンを入れて繊細な印象になる。 ・花をイエローアンダートーンのピンクでまとめ、間にイエローアンダートーンのグリーンを挟んだことで違和感のない作品になった。

完成品	学んだこと
4 月アレンジメント（イースター） 	・ 器の縁を隠すことでアレンジメントと器に一体感が出た。 ・ 天然素材の器の取っ手にリキュウソウを巻き付けることでナチュラル感が増した。 ・ 花の色をペールトーン、ライトトーンでまとめることで春らしい軽やかな印象にすることができた。
6 月花束（父の日） 	・ 花材ごとにグルーピングすることで花のリズムを揃えることができた。 ・ 黄の中に補色の関係である青を入れることでお互いの色を引き立たせることができた。 ・ 濁りのないブライトトーンやライトトーンでまとめることで夏らしい爽やかな印象になった。
6 月ハンギングバスケット（梅雨） 	・ 球根を植える時は空間が目立たない場所に植える必要がある。 ・ 小花が多く、蒸れを防ぐためにも切り戻しを行う必要があった。 ・ 色相環で隣り合う青と紫でまとめ、ライトトーンで揃えることで作品に統一感が出た。
10 月寄せ植え（ハロウィン） 	・ スイートアリッサムがリースの輪郭を乱しているため、完成後にはみ出ている脇芽を切り落とす必要があった。 ・ 花が単調な配置でも紫と補色の関係の黄を合わせることでメリハリのある印象になった。 ・ 明度に差をつけることでコントラストが生まれ、メリハリのある作品になった。